

第1学年 社会科学習指導案

日 時 平成24年10月26日(金) 5校時
 生徒 1年1組 男17名 女子19名 計36名
 指導者 及川 彰 (滝沢第二中学校)

1 単元名

第3章 中世の日本 2節 東アジア世界とのかかわりと社会の変動 1 モンゴルの襲来と日本

2 単元の目標

- 武家社会の展開、経済の発達と社会の変化、室町文化、そして東アジア世界とのつながりに関心を高め、現在との結びつきに気づかせる。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 鎌倉幕府の滅亡、南北朝の争乱、室町幕府の成立、応仁の乱、戦国大名の登場を通して、武家政治の展開を理解させる。 【社会的事象についての知識・理解】
- 東アジア世界とのかかわりをモンゴルの襲来、日明貿易、琉球の国際的役割を通して理解させ、その関わりが中世の日本に及ぼした影響を考えさせる。 【社会的な思考・判断・表現】
- 諸産業が発達し、都市や農村に自治的な仕組みが生まれるなど、民衆が成長していったことを理解させる。 【社会的事象についての知識・理解】
- 室町時代の新しい文化の特色を理解させ、現在との結びつきに気づかせる。 【社会的な思考・判断・表現】

3 単元について

本単元は、『中学校学習指導要領 社会 歴史的分野』の内容のうち、大項目「(3) 中世の日本」の中項目「ア 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。」に位置づけられ、政治体制の変化と周辺諸国との関わりがこの単元の柱である。

東アジアの周辺諸国との様々な問題が顕在する今こそ、東アジア世界との密接なかかわりが国内に及ぼした影響について考えさせたい。

4 指導にあたって

生徒の課題への追究意欲は全般的に旺盛であり、挙手発言も積極的である。一方、学習道具を準備できなかったり板書をノートできなかつたりなど、支援が必要な生徒もおり、個に応じたさまざまな配慮が必要である。また、いろいろな発想の発言もできるだけ取り上げて、授業への意欲を失わないように心がけている。さらに、授業内容を時事的な話題と関連づける事によって、世の中の情勢に興味や関心を持つように工夫したい。

5 単元の評価規準

	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
概ね達成できている状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開、経済の発達と社会の変化、室町文化に対する関心を高め、意欲的に学習に取り組んでいる。 ・モンゴルの襲来、日明貿易、琉球の国際的役割など、東アジア世界とのつながりに関心を高め、意欲的に学習している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの襲来や日明貿易が日本の政治や社会に与えた影響について、多面的・多角的に考察している。 ・自治的なしくみの発生、武士や民衆の活力を背景にした新しい文化の誕生といった社会の変化を、農業をはじめとする諸産業の発達、政治の動きなどから多面的・多角的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開、経済の発達と社会の変化、室町文化に関する様々な資料を活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア世界とのかかわりを背景に、鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開を理解している。 ・農業をはじめとする諸産業が発達し、都市や農村に自治的な仕組みが生まれたことや、武士や民衆の活力を背景にした新しい文化が生まれたことを理解している。

6 単元の指導計画（全9時間）

(1) モンゴルの襲来と日本	1	(本時) 1/9
(2) 南北朝の動乱と室町幕府	1	
(3) 東アジアとの交流	1	
(4) 産業の発達と民衆の生活	1	
(5) 応仁の乱と戦国大名	1	
(6) 室町文化とその広がり	1	
【深めよう】東アジア世界の朝貢体制と琉球王…国…	1	
【深めよう】室町時代の生活文化と現代	1	
章のまとめ	1	

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ ユーラシア大陸での動き、モンゴルの襲来と日本の対応について理解することができる。
- ・ 鎌倉幕府が滅亡した理由を、モンゴルの襲来の影響や社会の変化から考えることができる。

(2) 展開

過程	学習内容・学習活動	・ 指導上の留意点 ◎ 評価
導入 10分	<p>1 前時までの学習内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌倉時代の基盤（御恩と奉公） ・ 鎌倉幕府の支配力の強まり（承久の乱） 北条政子の演説（御恩と奉公） <p>2 元寇について資料からまとめる</p> <p>蒙古襲来絵詞、フビライの手紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌倉幕府の期間の確認（～1333年に滅亡） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題 なぜ、鎌倉幕府は滅亡したのだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幕府支配の基盤を確認することが、幕府滅亡の理由を知る手がかりになるという見通しを持たせる。 ・ 資料からポイントをしばって読みとる援助をする。 <p>◎ 元寇について正しく理解しているか、プリントの穴埋めで確認する。</p>
展開 30分	<p>3 元寇がおよぼした影響について資料をもとに考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武家社会の御恩と奉公の関係は、何を仲立ちに成り立っていたのか思い出して確認する。 ・ 領地の分割相続の結果、将来的にどうなるか考える。 ・ 石塁の写真から財政的な負担を考える。 ・ 蒙古襲来絵詞と恩賞を求める竹崎季長の様子から、何を期待して「一所懸命だったのか」考える。 <p>4 恩賞が不十分であることで幕府に対する感情、幕府との関係がどのように変化するか考える。</p> <p>5 永仁の徳政令を読み内容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 御家人の立場、金貸しの立場で話し合う。 ・ 御家人がどうなったか考える。 <p>6 幕府が滅亡した理由のポイントをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 御恩と奉公の大前提が崩れることを意識させる。 ・ 悪党の存在に触れる。 <p>◎ 幕府滅亡の理由を元寇や社会の変化から考えているか。プリントの記入内容で確認する。</p>
終末 10分	<p>7 学習の振り返り・まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>元寇をきっかけに幕府の御恩と奉公の関係が崩れ、更に徳政令の失敗で御家人の信頼を失った幕府を、後醍醐天皇が悪党や有力御家人を味方につけて滅亡させた。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習を振り返りまとめを文章で書いて発表させる。